

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2590500035
法人名	社会福祉法人 日野友愛会
事業所名	沖野原グループホーム
訪問調査日	平成 22 年 2 月 25 日
評価確定日	平成 22 年 3 月 21 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2590500035		
法人名	社会福祉法人 日野友愛会		
事業所名	沖野原グループホーム		
所在地	滋賀県東近江市沖野三丁目10-18 (電 話) 0748-22-7555		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年3月21日

【情報提供票より】(H 22年2月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 7 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤	人, 常勤換算 6.0 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円
敷 金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食	230 円	昼食 610 円
	夕食	610 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(22年2月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 82 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青葉メディカル ・ だいき歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは静かな郊外にあり、各居室から広い中庭に出ることができる木造平屋建に8名の利用者が暮している。当ホームは併設のデイサービス、ショートステイと廊下で繋がっており自由に行き来できる。そのため職員や設備が共有できる事、施設を訪れる人との交流が図れるなど、利用者は恵まれている。要介護度が年々高まる中、各人の能力に応じ自立に向けた機能訓練を受けている。職員は「心通う、愛情あふれる、夢のある暮らし」を基本に介助を行っている。地元ラジオ局、警察、消防、民生委員、幼稚園、ボランティア団体など地域とは強く結ばれている。医療体制は併設施設の看護師が対応すると共に、協力医療機関との連携を密にし、月2回定期的に受診しており、健康管理面は安心して過ごせる環境にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題とされた「重度化や終末期に向けた方針の共有」は、未だ進展がない。しかし、現実には1件の看取りが発生しており終末期対応指針の明確化と共有は緊急課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員が自己評価の目的や重要性を認識しており、全員が自己評価作成の討議に参画し、討議を重ねた結果を管理者がまとめたものである。そのため、評価の結果を運営改善に活かす職員の意識が高まった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	自治会、民生委員、ボランティア団体、幼稚園、市職員、事業所の施設長・職員が出席し隔月に実施している。内容は利用者の状況と行事の説明、新型インフルエンザ感染予防対策、転倒防止対策、地域への貢献について真剣に討議している。利用者の立場に立った行事や家族会のあり方なども話し合っている。討議内容は会議参加者の意見を活かし運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	今年から家族会が発足し家族と利用者、職員の交流が増え、意見や苦情を聞き出す機会が増えた。当ホームは地元ボランティアの支援で、イベントが毎月8件以上あり、その紹介と併せて家族の積極的な来所を呼び掛けている。苦情相談窓口として事業所、市の担当者、県国民健保団体の連絡先を重要事項説明書に明記している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民との連携は非常に強い。ボランティアの支援者が多く、当ホーム、デイサービス、ショートステイの利用者は多くの面で地域住民から支援されている。毎年施設主催の納涼祭を行ない、地域住民を含め200名以上が参加するなど、地域の暮らしに溶け込んでいる。さらに認知症の勉強会、お年寄りの体験入所などを実施し、地域住民に貢献している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心通う、愛情あふれる、夢のある暮らし」を理念とし、今年から理念の補足として介護方針の中に「地域・家族・知人を巻き込むチームケア」の文言を追加した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念に示す通り、愛情を持って親身に心通う介護活動を実践している。食堂兼広間には理念を掲示し、朝礼時には唱和して、全員が共有している。日常生活で起きる様々な事例は、理念に照らし合わせ判断、対処するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事が多く、交流の輪の中心は当ホームにあり、地域の人がこの輪に参加する状況である。農園、ボランティアの催し、地元のふれ合いサロン、幼稚園の行事などに会場を提供し交流を図っている。当ホームは地域お年寄り独居者の健康や認知症についての勉強会を開き、体験入所を行ない地域に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回も職員全員が自己評価票作成の討議に参加した。自己評価を踏まえ、家族会の発足を実現し、家族間同士の交流や家族と職員との連携も密になり効果があった。しかし、課題である「重度化や終末期に向けた方針の共有」は未だ取り組みがされていない。		昨年取り組みを期待した課題が未着手であるため、「取り組み課題を具体的な行動計画」に具体化して、改善に取り組むよう望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会、民生委員、老人クラブ、市の職員、近隣幼稚園、事業所の施設長、管理者、職員のメンバーで隔月ごとに開催している。議題は事業所の現状報告や利用者の日常生活で起きた転倒防止対策や新型インフルエンザ予防対策について、真剣に討議し結論をまとめ、運営に反映している。詳しい議事録も残している。		今後は家族会の意見を集約するなどして利用者や家族の意見を更に運営推進会議に反映するよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市の関係者に運営面の現状を報告し、介護、災害、ノロウイルス、新型インフルエンザの予防や研修、情報について相談し、保健や運営面などで常に強い連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員から毎月「お手紙」で日常生活、健康、心理面、イベントなどを「お小遣帳」と共に報告している。イベントに合わせて家族の来所を呼び掛け、家族の面会時は日常の様子を詳しく報告している。今年から家族会が発足し既に2回開催した。利用者の状況報告をすると共に職員との交流を深めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所し利用者と職員が接する機会を多くするよう努力している。行事や家族会に参加した際は時間を掛け意見を聞き出すよう心掛けている。玄関には意見箱が設置され相談窓口もある。事業所と市・滋賀県国民健康保険団体の苦情相談窓口を「重要事項説明書」に明記し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間に職員が1人体調不良で退職している。職員の交代には利用者や家族に不安を感じさせないように引継ぎ期間を30日程設けるなど配慮している。管理者は職員に対し、介護に誇りとやり甲斐を持たせ、意欲向上に繋がるようコミュニケーションを密にし、併せて指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各個人毎の経験や能力に応じ、育成計画を年間計画として位置づけ、着実に実施すると共に、資格取得の支援をするなど、全職員の育成に取り組んでいる。併設のデイサービスやショートステイの職員も含めた施設内研修を実施、職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東近江事業者協議会 グループホーム部会に参加し、近隣の同業者とは定期的に交流している。事業所が交代で体験実習をしたり見学会を行っている。介護活動に関する課題や介護の情報交換を行い、地域同業者と互いにスキルアップを図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネージャーが事前に家庭訪問し、生活歴を把握するとともに、利用予定者と家族に事業所へ来て貰い、他の利用者や職員の紹介をするなど、雰囲気慣れて貰うよう心掛けている。利用予定者の状態把握については十分時間を設け、家族から意向を聞き出している。職員が本人の心身の状況を把握し、本人も納得した上で入居を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活で起きた問題で、意見を聞いたり相談したりして利用者に教わることがしばしばある。利用者の自主性とやり甲斐を考慮し、「一緒にする」を基本に行動している。近くに300坪の畑と中庭に花壇があり、野菜と花を植えているが、野菜の育て方は利用者が職員に教え、収穫の際は共に喜び合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の希望を叶えるため、親身になって介護を行う中から汲み取るようにしている。利用者によっては自分の意思を巧く表せない人がいるが、本人の意向が判らない場合は家族と一緒に介護することから情報を収集している。本人がやりたくないことは無理強いしない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては本人、家族と十分話し合いを行い、具体的な介護内容には本人の意向及び関係者全員の協議内容を反映している。作成された介護計画は家族の承諾も得ている。今年から介護方針として地域・家族・知人を巻き込むチームケアを目指し、家族と共に介護する機会を設けることを介護計画に織り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月定期的に見直すと共に、状況変化に応じて本人、家族、看護師、担当職員と話し合いを行い都度見直しをしている。変更は記録を残し家族の承認を得ると共に、変更後の介護が本人の要望に合っているかの検討もしている。利用者毎の介護シートには健康状態、情緒、自立状況を克明に記録している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算事業所ではないが、同じ施設内の看護師3名が支援している。通院は家族が同行できない場合は職員が協力している。盆暮れの一時帰宅や家族のホーム宿泊、墓参、結婚式出席などの要望に対応している。理美容院は本人の選択に任せている。理容師免許を持った職員がいて勤務時間外に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してから発生した疾病は家族の同意を得て協力医で受診している。現在かかりつけ医に通院している利用者は1名おり、家族の協力を得て通っている。その他の利用者は家族の同意を貰って協力医に変えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応の具体的な方針は作られていない。しかし今年2月にターミナルケアを行った後、亡くなった利用者がある。職員が看取りケアを行い家族から感謝されたが、ターミナルケアの受入れには本人の意向や当ホームの医療体制を考えると、受入れを表明する段階ではないというのが事業所の見解である。	○	利用者の考えや家族の思い、事業所の体制の問題もあるが、今回の事例を生かして方針を明確に文書化して頂きたい。文書化したもので本人や家族に説明することが重要であり、話し合いを行い文書で記録を残すと共に、考え方を常に共有し介護に当たることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者に接する場合は人生の先輩として尊敬し、親しみを込めて平等に声掛けをし、敬語を使い本人のプライドを傷つけないよう注意している。プライバシーに関わる書類は施錠出来る書棚に保管しているか、パソコン内に保存している。個人情報の保護に関しては職員に徹底するための教育を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はこれからの人生を好きなことをして、穏やかに過ごしたいという願望があり、職員はこれを叶えるための努力をしている。趣味の活動も利用者の希望するペースに沿って支援している。身だしなみやおしゃれにも気配りし、本人の好みを大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎日3食とも、利用者と職員が一緒に調理している。刻み食は各人に対応している。職員は弁当持参であるが、月に数回、夕食を入居者と職員が同じものを食している。馴染みの食器を使い、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。後片付けなどは出来る人達で行なっている。		職員は若く活動量が多いため、利用者と同じ食事では物足りなさを感じると思うが、職員と一緒に食事を楽しむ環境作りを更に前向きに考え、同じものを食べる機会を多くするなど一層の工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴場は4箇所あり、座ったままの入浴や5人同時に入浴できる広さのものもある。入浴時間は昼食後から夕食までの間に決めているが、希望によりいつでも入浴できるようにしている。入浴を拒む人には週2回は入浴するよう勧めている。入浴を楽しむ工夫として浴槽が広いので気の合った者と一緒に入るように薦めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下準備、洗濯物の片付け、共有場所の清掃、花壇の除草など得意分野で役割を担当している。利用者は全員うどんが好きで、粉をこねることから完成まで手作りするため、身体を動かすと同時に食べる楽しみを味わっている。利用者の最大の楽しみは家族の面会であり、一時帰宅や家族がホームに泊まりに来てい		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当事業所入口に面した道路は車の通行があるため、散歩する際は職員が同行している。買物や近隣への外出は希望があれば送迎車を使い、積極的に応じている。居室から中庭に出て、そこで日向ぼっこをしたり散歩も出来る。ホームに隣接した300坪の農園に出かけて、野菜作りを楽しむことが出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2年前、ショートステイ利用者が徘徊し、4時間後に無事保護された事例がある。このため玄関は施錠している。外出の機会が多いのと、各人の居室からは広い中庭に自由に入出りできることやショートステイ・デイサービスのフロアには自由に行き来できるため、内部環境的には自由に行動でき閉塞感を感じない。		ショートステイやデイサービスと併存する関係もあるが、職員が常時見守り、鍵を掛けない工夫をするのが基本であり、玄関も日中は鍵を掛けない介護の実現に一層の努力を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機、消火器、煙・熱警報器は設置してある。避難マニュアルもあり、災害時の避難訓練は消防署指導のもと年2回実施している。緊急時、地域との連携は自治会長に連絡する体制になっている。災害訓練は地域の訓練と共同で行う計画である。現在スプリンクラーの設置工事中で3月に完了する。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは管理栄養士と連携をとり作っている。規定の摂取量が摂りにくい人には、お粥にしたりきざみにするなどして対応している。食事の摂取量と水分摂取は個別チェックリストにより確認し記録している。水分摂取量の確認は2年前から実施している。常時お茶などが飲めるようポットや茶器の設備はある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は適切な広さがあり、空調、換気、遮光、防音などの設備は整っている。廊下など要所には手摺の役目をする支えがある。食堂兼広間は床暖房になっており快適に過ごせる。その広間の一角には雛壇を飾り季節感が窺われると共に、利用者の作品である書、切り絵や写真などを飾り、生活感が味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は11畳の広さにトイレ、洗面台付きの洋間で、馴染みの家具や写真を置いている。室内は整理整頓されよく清掃されている。この部屋で家族が泊まれるようになっている。エアコンによる温度調整は利用者の希望に合わせ職員が行ない、快適な温度に保たれている。居室の 鍵も掛けられるが施錠の判断は利用者の自由である。		